

1 庭園部会による「庭園文化塾」の開講

庭園部会は、これまでの活動成果を踏まえ、当センター主催の「庭園文化塾」をスタートさせた。造園界の若手を対象に、連続する1年間の講座で頭と心と技を磨き、なによりも庭園文化の啓蒙者として、自立する造園家を育成することを目的とするこの塾は、国際造園研究センターの新しい事業として重要である。会員の皆様の温かいご支援をお願いしたい。

2 他団体との連携・協力事業の拡大

昨年度国際造園研究センターは、単独の研修事業、庭園事業等も実施したが、多様な関連団体と連携・協力した事業も多く、これらを企画実施し、会員への情報提供を行った。時間の制約等から、情報は主としてウェブサイトから提供した。主な連携・協力事業は、「南大阪公園道路網と桃ヶ池公園道路に関する講演と現地見学会」、「前中久行先生と歩く浜寺公園松林散歩」、「堺市妙国寺、大仙公園等、合同研修会」等である。

3 四金サロン（よんきんさろん）の運営

今年度からは毎月第4金曜日午後4時から四金サロンを開いている。各月第4金曜日の担当者を決め、担当者の企画で有意義なサロン運営を図る予定である。ちなみに今年度第1回は三浦頼彦氏により大阪府営公園にかかわる都市計画変更について情報提供があった(4/24開催)。

4 その他

中橋文夫理事が「わらじで舞踏会—私がビジネスマンから大学教授に転身してきた理由」<水曜社発刊本体1,500円>を上梓されたことを受け、お祝いする会を当センターが中心となって実施した(4/10)。

また、吉田昌弘理事長が、日本造園学会上原敬二賞を受賞されましたので、お知らせいたします(5/24)。

(糸谷 正俊)

通常総会

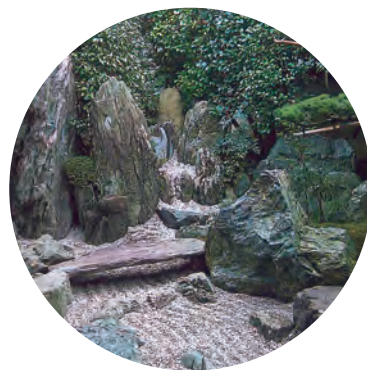
平成26年6月16日午後2時30分から、ホテルプリムローズにて平成26年度通常総会を開催した。開催にあたって服部理事長と梅澤理事の突然の死に黙祷が奉げられた。正会員正会員総数59名の内過半数の44名の出席となり、本総会は成立し、理事長代行の吉田昌弘氏を議長とし、提案された平成25年度事業報告および決算報告、平成26年度事業計画案および収支・支出予算案ならびに総会議決事項の委任は原案どおり可決された。総会終了後、景観デザイナーの二見恵美子氏と木田幸男理事による植物の地上部と地下をテーマにジョイント講演が行われた。

編集後記

今年度で前理事長の清水正之氏と副理事長の坂本新太郎氏に顧問として今後も指導していただくこととなった。これまで風格のあるNPOであれたのはこの御両名あつてのことと思われるが、この私、服部がいざ！と、これからの思い巡らす日々の矢先であったと思う。無念！当センターの税理事務を引き受けてくださっている杉先生が「いいね～自分の好きなことのためにNPOやってるんでしょ」と仰るとおり、忙しい皆さんも好きなこと、思いのあることをしましょう。「四木」改め「四金」はタダで授業を受けられる、ごっつい面白いサロンです。ぜひ集いましょう。

NPO法人 国際造園研究センター会報

No. 12
2015
6月発行



『庭園文化塾』が開講しました！

約10年振りに日本庭園に関する研修講座を開講します。
今回は庭園の発祥、歴史・様式から技法等について
座学8回、現地研修4回の計12回にわたる研修です。

庭園文化塾の講義内容

会場：国際造園研究センター事務所にて 時間：19:00～20:30

	内 容	講 師
第1回 平成27年5月	日本庭園の歴史と様式Ⅰ 「ニワ」「庭園」の発祥 池泉庭園と枯山水について	吉 田
第2回 平成27年6月	日本庭園の歴史と様式Ⅱ 露地及び回遊式庭園の発祥とその後の展開 築山泉水庭及び、平庭、坪庭。	吉 田
第3回 平成27年7月	日本庭園の特性と空間構成技法Ⅰ 自然と庭園(「作庭記」を踏まえて) 「間」「きめの細やかさ」等の「和」の考え方と庭園	吉 田
第4回 平成27年9月	空間構成技法Ⅱ 「見え隠れ」「折れ曲り」等の技法 「天地人」「結界」等の具体的な技法について	吉 田
第5回 平成27年10月	文化財庭園の保存と修復 名勝庭園の事例を踏まえて 名勝の意義と具体的な技法について	田 中
第6回 平成28年1月	石組、石積等について 石材及び石積、石組の具体的な技法について	福 原
第7回 平成28年2月	植栽と樹木管理 配植の技法と剪定技術の基本	田 中
第8回 平成28年3月	特別講義 世界の日本庭園と造園会の今後	清 水 田 中 吉 田

※現地研修会は当センター見学会と共同で実施します。
主に京都の庭園を中心に企画予定。

上代(古墳時代)から現代に至るまで、日本庭園は、風土および時代毎の社会・文化の影響を受けて、様式・技法を確立し、現代に伝えられてきました。このため、造営当初の形態をほぼそのまま保存されてきた庭園が多いのですが、一方では、銀閣寺や西芳寺のように戦乱や社会変革及びこれに伴う文化の変遷の影響を強く受け、造営当初とは、まったく異なった庭園として、現代に生きついできたものも多く見られます。

このように日本の庭園は時代毎の様式が確立されてきましたが、必ずしも固定化されたものではなく、時代の社会・文化に対応して変貌するという側面も強いようです。

また日本庭園は建築や園芸のみならず、絵画や工芸、文学等、他の文化芸術とも強い結び付きを持っています。特に建築・園芸などに影響を与えつつ、時代毎に変化してきたという点も指摘されます。

こうしたことから日本庭園についての知見を広げるといことは、単に庭園という枠に留まることなく、公園等の造園空間云うに及ばず、都市・地域空間の在り方を探る上でも重要なことと云えます。

この文化塾は、本年に限定せず、できれば毎年開講し、いずれは文化“塾”として成長・定着できればと願っています。

(吉田 昌弘)

◎ ご入会の案内

当センターは都市緑化への協力を努めながら、造園、園芸技術の研究、研修会の開催、自然と環境問題の調査、国際交流の推進などをテーマに活動しています。関心をお持ちの方、主旨にご賛同の方はぜひご参加下さい。

	入会金	年会費
個人正会員	10,000円	10,000円
団体正会員	50,000円	30,000円
賛 助 会 員	30,000円	20,000円
友 の 会	免 除	3,000円

◎ ご寄付のお願い

当センターの活動をさらに活性化させるため、広く皆さまのご支援を賜りたく、ご寄付をお願い申し上げます。

◎ ご寄付 3,180円 (みどりの箱寄付を含む)

◎ 新入会員のご紹介

個人正会員 河合正恵 阪中計夫 石原憲一郎
団体正会員 株式会社 美交工業

NPO法人 国際造園研究センター

〒540-0021 大阪市中央区大手通1-4-2 ワイズ谷町ビル202号
TEL/FAX：06-6944-2040 http://www.klrs.org/
メールアドレス：kslsrs02@mist.ocn.ne.jp

🔍 国際造園 で検索！

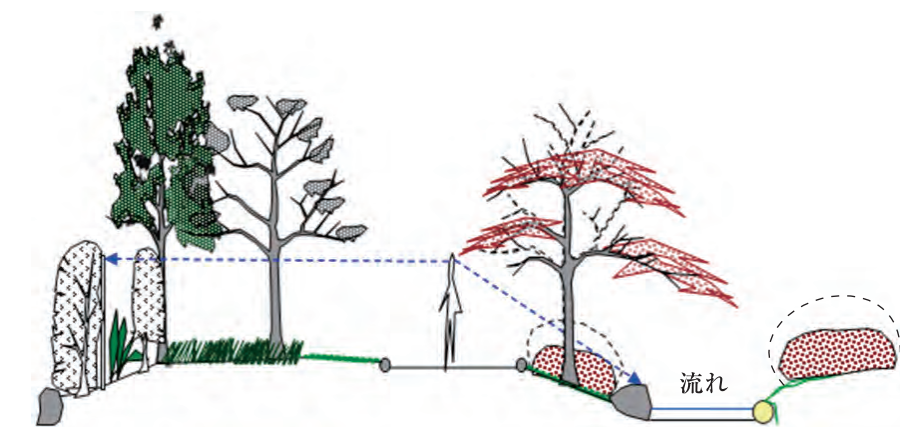


堺市『大仙公園日本庭園』の管理について



南海造園土木(株)は、堺市、大仙公園日本庭園の指定管理者として、大阪造園土木(株)、(株)田中造園土木との共同企業体で受託して、現在は3期目で10年となります。

この庭園は最大級の前方後円墳として知られる仁徳天皇陵の南に隣接する大仙公園内にあり、堺市市制100周年を記念し歴史的背景を元に作庭されました。庭園様式は『築山林泉回遊式』で作庭は中根金作氏があたられました。26,000平方メートルの中に、大海としての池を中心とし、対岸は中国大陸の名勝「廬山」、「古虎溪」を模し、また桃源台に発する水流は、市内を流れる石津川として、諸処に景勝を織り交ぜながらやがて大海にそそぐ景観を伝統的技術を駆使して造られました。静肅な憩いの場として市民皆様の催し物等に広く利用されている施設です。



特に管理の主題としたのは樹木管理であり、流れ部で多く植栽されているモミジの剪定樹形とサツキ類の刈込の高さの点です。年度ごと業者が変わるため異なる剪定作業がなされており、モミジは切詰め剪定を繰り返した結果、自然な風情を失ってしまった状況であり、また、刈込は着蓄を重視して浅く刈り込むため景観を崩してしまうほど高くなっていました。この2点の改善を図ることを主題としました。(左図)



自然な風情を失ってしまった景観

9年間の管理作業を経て樹形の改善、刈込の高さについてはかなりの改善ができたものと考えています。

入園料の増収策としては、入園者数の増加・来園者の多様化とを図り、入園者数の増加、とくに従来利用者が少ない夏季、冬季の来園者の増加を図るためには来園者サービスの向上を、また休憩舎周辺においてサクラソウ、ハナショウブ、大輪朝顔、古典菊、日本ツバキの鉢植えなどの伝統園芸植物等の展示を開催しています。

また、来園者への呈茶サービス(有料)の質的な充実を図るため従来干菓子を出していたものを季節に合わせたおも菓子を提供するように変えました。生菓子のことであり当日配達、当日売り切ること、市内の和菓子店で

購入し、平等性を図るため3軒の和菓子店から月替わりで納入させること、担当従業員(シルバー人材センタ派遣)には和風のユニホームを着用させることなどの点に配慮しています。

その他、ライトアップ、コンサート、観月、餅つきなど様々なイベントを企画実施して増員増収を図っています。

「本市は千利休生誕の地であり、小学生児童に茶席の体験をさせる」という堺市教育委員会が平成16年末で終了した事業を指定管理の公益事業に据えようと考えました。庭園内には中世の納屋衆と呼ばれた堺の豪商たちが会合等に利用した集会所(休憩所)があり、茶道指導は三千家協議会にお願いし小・中学校の学年単位で実施し、26年度では市内小学校17校 1,474人に体験してもらいました。



現在堺市では仁徳天皇陵を含む百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を目指しており、本施設でも観光客、特に外国人観光客への対応を求められています。現在では韓国からのツアーに組み込まれるなど外国人の入園者数は年を追って増加しており、21年度から園内パンフレットは日本語を含め6カ国の言語のものを制作・配布しています。

園内の案内として昨年秋から、来園者の所持しているスマートフォン(貸出機もあり)を利用して園内主要スポットに設置した電子タグから音声案内、画像情報を発信・表示して案内するシステムを導入しています。このシステムでは電話器の使用言語に対応して日本語を含め5か国語で案内するようになっています。今後もより利用し易いシステムへと改善を図っていきます。(辻 正信)

清水コレクションのアーカイブ作成中！
公園・緑の都市計画、その歴史に触れてみませんか？

“公園アーカイブ”の取り組み、
その成果と期待

大阪府は明治6年(1873年)の太政官布達による最初の公園住吉公園と浜寺公園の開園120年の記念事業として「府営公園の今昔」という記念誌を刊行した。この誌の中の「思い出」は、昭和の初期から戦後の混乱期の古い時代に大阪府に在籍され、公園関係の仕事に従事された先輩方の寄稿執筆である。しかしながら、ご存命中のかたは当センターの元理事長、清水正之氏ただお一人である。平成6年3月(1994年)の出版で貴重な資料である。

この出版に際して、当時、理事長であった清水氏と社団法人大阪府公園・都市緑化協会が編集を行い、中でも氏の執筆された「府営公園の120年ーその史的発展ー」の元になる多くの資料や過去のデータは現在当センターにアーカイブ(過去の重要な記録を保存し未来に伝達する作業)されている。公園の歴史を紐解くには格好の場所となっている。惜しみなくこれら資料を提供される清水氏には、大学の、中でも修士などそれを目途にこのセンターを訪れる。私の知るところ、京都大学大学院川崎研究室の山口先生やその研究室の村上さんや八尾さんに、また東工大の斎藤研究室の尾崎さんへの資料提供および助言をされており、成果品としての修士論文の一部を頂きセンターで保管をしている。、その報告の際、センターに寄った尾崎さんは昼の2時から夜の10時まで清水氏と我がサロンに付合う羽目になってしまった後日談もある。

村上さんは堺に実家があると聞いたが、地元、浜寺公園の戦前の歴史を周辺の街の形成過程と合わせての論文で、当時鳳土木にいた私にとっても興味深い資料となった。

枚方出身の八尾さんは1928年の大阪市都市計画公園の計画決定の経緯を取り上げ、「自由空地」「公園道路」の検証と、その中でも大正から昭和にかけての都市計画家・大屋霊城を中心にまとめ上げている。大屋霊城は清水氏の一昨年当センターの記念講演会「大阪緑の都市計画

の原点ー大屋霊城の功績ー」や「論客 大屋霊城 - 初代の緑の都市計画家」(「ランドスケープ研究」1997年)で紹介された。その折に集めてこられた資料はセンターには多く残されている。中でも肉筆の原稿用紙や大屋霊城氏の追悼記念号雑誌「公園」などの原本からは大屋氏の持つ緑への熱情とその豊かさに直に触れることができる。

尾崎さんは奈良の出身で、大阪の四大緑地とその緑地計画及び防空緑地の形成過程をテーマにしている。1941年大阪緑地計画図は承知していたが、1940年以前の大阪の地形図(1/25,000)の上に都市計画を載せたもので、その考察と戦前の地形図は興味深い。

これらはすべて修士論文であるが、まずは関西に育った若者たちが、首都圏にはない関西ならではの地域性に着目し、選んでくれたテーマでもあり、大阪の公園と緑地計画を奇しくも明治初期から終戦まで通しての歴史を認識する機会となった。また、失礼を承知で言わせてもらえれば、歴史的読み物としても十分魅了されることを実感した。日頃、研究室でカップヌードルかコンビニ弁当を抱え、何度も徹夜している彼らにとって、当センターで提供する資料は上級の研究資料であると思う。

また(一財)大阪府公園協会の公益事業として後押ししてもらい、現在この2年で大阪府の公園の資料の整理は大成した。この場を借りて謝意を表したい。が未だ博覧会事業や海外情報、緑化など資料も多く、アーカイブの意味とその作業に今後も取り組む必要がある。

(繁村 誠人)



大屋霊城氏直筆の原稿と「公園」大屋霊城追悼号(関一氏の手紙が添えられている)
どちらも伊達雄雄氏蔵書からの寄贈(センター所蔵)